

第2章

運動部活動の顧問の姿勢



この章以下では、運動部活動の指導場面における疑問や問題点の解決に向かうヒントとして活用できるよう、「質問」と「ヒント」の形式で示している。

よりよい部活動の運営を目指すために行うべきことが確認できるように「確認チェック」を設けているので、現在の活動状況や指導状況を整理して、運動部活動を見直しながら今後の指導に生かすことが重要である。

1 運動部活動における顧問の姿勢

運動部活動は、顧問の指導の下で、運動部活動の意義が十分発揮されるように学校において計画する教育活動として適切に行われなければならない。

部活動を活性化させ、生徒が充実した部活動の時間を過ごすことができるようにするには、専門的な知識や指導技術等いろいろなことが挙げられるが、行き着くところの答えは「指導者」次第、つまり「人」次第であることを忘れてはいけない。

教員として、生徒に「教えない」、「間違いを教える」、「考えさせないで答えだけを教える」ことは、生徒が好きなスポーツや得意なスポーツで向上したいという芽を摘むことにもつながることを自覚しなければならない。

初めて顧問になった場合、担当する種目が専門外で指導経験がない場合、さらには学生時代に運動部活動の経験がない場合などにうまく指導できるだろうかという不安を抱くこともあるが、部活動の顧問の役割は、ただ技術指導や戦績を挙げることだけではない。

そこで「顧問としてあるべき姿 8つのポイント」として示したので参考にいただきたい。

2 運動部活動を指導する魅力

部活動は、学級や学年を離れ、生徒と密接に交流できる重要な場である。

日々の部活動において、生徒とともに決めた共通の目標に向かって努力する過程を生徒と一緒に汗を流し、話し合い、励まし合い、高め合っていく活動を通して、担任や保護者とは違う面での触れ合いができるなど、授業とは異なる人間関係や生徒理解を深めることができる。

また、卒業生が何年たっても顧問を慕って交流を続けているという例は、指導者にとって何物にも代えがたい指導者としての最高の喜びである。

さらに、運動部活動の指導では、生徒の心を動かすことができ、保護者や周囲の関係者の心までも動かすことができる。そのため、学校や地域に強い一体感が生まれ、みんなで夢や希望を追いかけることができる。



1 明確な指導理念をもつ。

- ・ 生徒に何を身に付けさせたいかはっきりさせる。
- ・ 指導の柱となる考え方や指導方針を明確にもつ。
- ・ 生徒に任せ過ぎない。（教えるべきことは、徹底して指導する。）
生徒の自主性 ≠ 放任

2 常に安全に配慮し、安心して活動できる環境を整える姿勢をもつ。

- ・ 生徒の安全を最優先した活動計画を立て、練習環境を整備する。
- ・ 生徒の健康状態に応じた適切な指導をする。

3 生徒と共に学び、汗を流す姿勢をもつ。

- ・ 活動場所に一日に一度は行き、声をかける。
- ・ 生徒から学ぶ気持ちを大切にする。

4 生徒の個性と自主性を尊重し、柔軟に対応する姿勢をもつ。

- ・ 生徒を理解し、生徒の期待に応えられるよう顧問も指導技術を磨く。
- ・ 指導者の価値観だけを生徒に押し付けない。
- ・ 練習試合などにおいて、「できなかったこと」＝「悪いこと」のように評価し、生徒の人格までも否定するような指導をしない。
- ・ 男女別の性差による個性や特長を把握して、個に応じて指導する。

5 生徒の心身の発達を大切にしながら、豊かな人間形成を図る姿勢をもつ。

- ・ 極端に勝利至上主義に偏らない指導をする。

6 学校生活を大切にする姿勢をもつ。

- ・ 勉強と部活動の両立ができる活動計画を立てる。

7 先輩教師・同僚教師から学ぶ真摯な姿勢をもつ。

- ・ 指導していく上で分からないことがあれば、その都度身近にいる同じ学校の教員に相談する。

8 結果が出てから手遅れの指導をしない。（生徒の責任にしない。）

- ・ 結果が出るまでに精一杯の指導をする。



名言1

平凡な教師は言って聞かせる。よい教師は説明する。

優秀な教師はやってみせる。

しかし最高の教師は子どもの心に火をつける。

アメリカの教育学者・作家・牧師・教師 ウィリアム・ウォード

3 運動部活動の顧問へのお願い

運動部活動の顧問の役割は、実技指導だけでなく部活動の運営や生徒指導まで多岐にわたっている。

始めから部活動全般を総合的に指導することは困難かもしれないが、顧問を任された教員は、生徒に「〇〇部に入部してよかった」、顧問自身も「〇〇部の顧問になってよかった」、お互いが「出会えてよかった」という充実感が得られるために部活動の改善を図り、運動部活動の顧問としての指導力の向上に努めることが大切である。

そこで、顧問として、「できることからはじめてみる 8つのポイント」と「好ましくない指導 8つのポイント」を次にまとめているので参考にさせていただきたい。

できることからはじめてみる 8つのポイント

- 1 忙しくても5分でも10分でも活動場所に行く。
 - ・積極的に部活動の指導にかかわる。
 - ・練習前、後のミーティングに参加し、生徒の言葉に耳を傾ける。
- 2 出席状況の確認や健康観察をする。
- 3 生徒が元気になる「励ましの声」をかけ、生徒を理解する。
 - ・信頼関係を築くことから始める。
 - ・「だめだ」、「なっていない」などの否定的な表現から「よくなった」、「・・・ならできる」などの表現で声をかける。
- 4 好ましい人間関係の形成や心の教育を指導する。
 - ・友情、連帯感、責任感、努力、忍耐力、協調性、友情の大切さなど精神的な成長を促す指導をする。
- 5 部活動の意義を理解する。
 - ・部活動で生徒が何を学び、何を身に付けているのかを常に見る。
- 6 種目のルールや用語を理解する。
 - ・生徒とのスムーズな会話や生徒の活動中の動きを指示できるよう、担当種目について、専門書やインターネットなどで勉強する。
- 7 活動場所にいる一人として何ができるのか考え、一生懸命な姿を見せる。
 - ・球拾い、練習の補助、体調の悪い生徒に目を配るなど、自分にできることを見付けてやってみる。
 - ・できないこともあるが、できることを少しずつ増やしていく。
- 8 生徒を引率した機会を利用して他校の活動を見て、先輩教員から学ぶ。
 - ・他校の顧問や競技団体の関係者などと積極的に交流して指導力を高めていく。

「笑顔」・「元気に挨拶」・「声かけ」

好ましくない指導 8つのポイント

- 1 **すぐ怒る＝褒めない。**
 - ・生徒の良いところを見付けることができない。
- 2 **暴言を吐く。**
 - ・大きな声で恫喝する指導に頼り過ぎて、論理的な指導がなく、生徒のやる気を引き出せない。
- 3 **勝ち負けだけの結果だけで、他のチームと比較して否定する。**
 - ・具体的な理由や改善点を説明するなど、生徒が納得できる指導ができない。
- 4 **暗い。**
 - ・生徒が萎縮又はだらだらするなど明るい雰囲気の実習環境を作ることができない。
- 5 **えこひいきする。**
 - ・生徒の表面のみを見て、平等な接し方ができない。
 - ・公平な評価ができない。
- 6 **経験論・精神論ばかりで科学的・客観的な指導がない。**
 - ・「昔からこうだった」、「みんなこうして育ってきた」など自分の経験に偏った指導をする。
- 7 **いつもと同じことをクドクドとしつこく言う。**
 - ・表現方法が乏しい。
 - ・ミーティングは時間をかければよいというものではない。場に応じた適切な指導ができない。
- 8 **毎日、同じ練習パターンを繰り返す。**
 - ・課題を解決するための新しい練習方法を研究しない。

4 先輩教員へのお願い

現在、素晴らしい指導者としてその手腕を発揮している先輩教員には、はじめから全てが分かる指導者ではなかったことを自ら問い直し、思い出し、本ガイドを活用してもらいながら、先輩教員として次代を担う指導者（教育のプロ意識）を育てていただきたい。

部活動指導で学んだこと

愛媛県立松山北高等学校長 平岡 長治

学校での指導経験に乏しい私は、直接生徒を指導する教員としての成熟度は低く、ご披露して役立つような実践例はあまりありませんが、自分が部活動指導を通して学んだことを、少し書かせていただきます。

私は新規採用の時、幸いにも母校である野村高校に勤務することになり、部活動は自分の希望どおり、大学時代に経験のある柔道部担当となりました。補習やクラスの生徒の面接などに忙しく、生徒と汗を流す時間は十分取れませんでした。生徒と組み合っても、大学時代の力がまだ残っており、生徒に投げられるようなことはありませんでした。自分でも、生徒に負けないだけの力は保っておきたいとの気持ちもありましたので、結局母校にいた9年間、一度も生徒に投げられたことはありませんでした。しかし、定年退職を前にして今考えてみますと、一度も投げられなかったことは、私が良い指導者でなかったことの証のように思えます。おそらく良い指導者であれば、時には力を抜いて、しかしそのことを悟られないようにして、投げ飛ばされてやったことでしょう。そして、「やられた。だいぶ強くなったな」とか「今の技はよく効いた。だいぶ練習したな」とか言って、生徒を褒めてやるに違いありません。自分にはそのような度量や配慮がありませんでした。厳しさや強さを見せるだけでなく、時には弱さやかっこう悪さを見せるほうが、教育として大きな力を持つことを、ほろ苦く反省している次第です。

次に転勤した八幡浜高校では、一転してまったく経験のない女子バレーボール部の顧問となりました。柔道部には、すでに専門の先輩教員がおられたからです。「女子バレーボール部の指導者が転勤し、人がいないので、君はそれをやってほしい。」「私はルールも知りませんが、かまいませんか。」「いいから、やってくれ。」そんなことで、女子バレーボール部担当となり、その足でグラウンドのバレーボールコートに行きました。当時でも土のコートは珍しかったのですが、体育館は活躍していたバスケットボール部が使うことになっていました。私がバレーボールコートに行くと、走り寄ってきた部員が半円形に私を囲み、声をそろえて「お願いします。」と言うので、自分はルールも知らないが、一生懸命やるのでよろしくと答えました。正直、何をやっていいのかまったくわからず、不安でしたが、とにかく自分は一時のつなぎだろう、自分のできる範囲のことを、わずかでも一生懸命やるしかないと考えました。ところが、やってみると、まったく素人である私にできることがいっぱいあるのです。練習に出てじっと見ていること、気合が入っていない部員に気合を入れろと言うこと、体調が悪そうな部員に目を配ること、ボール拾いをする、指導書を読んで勉強すること、練習試合をお願いし、引率すること、そして「プレーのこつをあの先生に教えてもらえ。」と指示することなど。実際には自分にできないことなどほんの少しであるのに対して、できることは手に負えないほど多くあることに気付きました。あれもできる、これもできる、しかし、時間がなくて、あるいは自分の努力不足でできない、というのが現実でした。たしかに、長いプレー経験の中で会得した技術向上のこつを教えることや、試合中に相手の作戦や弱点をすばやく察知し、早めに的確な指示を与えることなどはできず、生徒たちは「専門の先生が来てくれれば、自分たちはもっと勝てるのになあ。」と残念に思っていたでしょうが、自分にできることをがんばれば、ある程度補いはつくものだとすることを学びました。結局、八幡浜高校に勤務した九年間ずっと女子バレーボール部の顧問を続け、その間二度ばかり四国大会にも出場できましたし、それより何より、当時の部員が今も時々「皆が集まりますが、来ませんか。」と声をかけてくれることを、たいへんありがたく思っています。

私たちは仕事の上で、困難に遭遇し、不安に駆られることが時々ありますが、まずは自分のできることを一生懸命行うことで、だんだんと解決の道が開けてくるように思います。できないこともあるが、できることもたくさんあること、そして、それに積極的に取り組むことの大切さを、私は部活動の指導を通して学んだように思います。

愛媛県教育委員会ホームページ 教育広報えひめNo.174

「私の教育実践」平成20年12月より

－「教えて教わる」－

今治市立亀岡小学校教諭 佐々木 直

採用されて3年目の春、ミニバスケットボール部の監督を命ぜられた。スポーツ、特にボールと名のつくものすべてが苦手の私にとって、バスケットボールは未知の世界であった。指導はおろか、ルールさえろくに知らない。それでも教えなければならない。私は、中・高とバスケットボール部に所属していた運動が得意な同期生に教を請うた。教わったことを帰って早速実行するが、子どもたちは私の思うようには動かない。それはそうだろう。知識ばかりが先走って子どもの立場で全く考えていないのだ。それでも試合の日はやってきた。勝てない。そんな試合で私は何をしていたか。ひたすら怒鳴った。動いていないことを選手のせいにして。チームは連戦連敗。私は怒り続けた。

そんなある試合が終わったとき、体育館の入り口で帰り支度をする私に、一人の保護者の方が静かに近づいてきた。「先生、あんなに怒鳴っとったらいかんわい。」決して私を非難するでなく、しかし、厳しさのこもる口調で諭された。私は目が覚めた。それまで、必死で大声を出すことが一生懸命指導していることだと思っていた。しかしそれは、未熟で自信のない指導の裏返しと幼稚な人間性の表れであった。

それから、私は変わった。子どもの力を見極め、子どもの特性に合った作戦を取り入れた。そして、いいプレーは褒める。失敗したら励ました。今思えば、当然のことなのに、そんなことさえできていなかったことを恥ずかしく思う。が、結局、その年は1勝もできなかった。6年生は悔しい思いを抱いたまま卒業していき、申し訳ない思いだけが残った。

次の年、また監督を命じられた。私は、先輩教員の助言も受け、子どもに合った練習方法と作戦を探った。そうすると、子どもたちがよく見えるようになった。針の穴をも通すパスでゲームを組み立てる司令塔、速攻に掛ける駿足、ボールを持てば即得点のジャンプシュートの達人、狙撃手のごときロングシュートの名手、はえ叩きと呼ばれた豪腕のシュートブロック。個性豊かな子どもたちは実にいきいきと動いた。そして、私は褒め続けた。チームは連戦連勝。シーズンを終えてみれば、市内2大会で優勝、練習試合も含め負けたのは1試合だけという強豪チームになっていた。

私は、この2年間で教員として大きなことを学んだ。

保護者の一言。指導とは、子どもを理解することから始まる。いくら自分がよい指導方法だと思っていっても、一斉に一方的に教え込むだけでは意味がないのだ。目の前にいる子どものよさを引き出すものでなければ。個性を伸ばす、個に応じた指導の大切さである。このときの6年生は、新採から3、4年と担任した学年で、前年の部活動を合わせると4年目のつきあいとなり、お互いによく理解し合うことの大切さを一層感じさせてくれた。

子どもたちの姿。褒めてもらいたいと思っている場面で褒めると、子どもたちは本来の力を発揮する。また、強いチームになったのは練習方法の改善だけではない。実は、子どもたちは、休日や長期休業中に、校庭でボールを使ってずっと遊んでいたのだ。ボールを扱う感覚をその中で養ってきた。つまり、授業以外の場面でも学習に対する意識を継続させることができれば、自ずと力がついていくのだ。私は、教えながら教わっていた。

さて、この時の子どもたちも今は27歳。毎年、盆暮れには一緒に酒を酌み交わすようになった。記憶に残っていることは何かと尋ねると、「先生、いつも私らを怒鳴りつけよったよね～」あれ？君たちのことは褒め続けていたはずなんですが…。「先生もお子ちゃまやったよね～」あれ？幼稚な人間性もお見通しだったのですね…。教師である前に、人として学ぶべき事は多い。

またひとつ教わった。教師修行は人間修行であるのだ。

【質問1】

運動部の顧問としてどのような指導理念をもてばよいですか？
また具体的にはどのようなことが挙げられますか？

【ヒント】

部活動を指導することにより、生徒にどのような人間に成長してほしいか、何を身に付けてほしいかなど、顧問自身の指導に対する考え方を具体的にもつことが大切です。そして、そのことを生徒に明確に示す必要があります。

顧問としての指導理念をもつに当たり、下記のことや先輩教員等の実践事例を参考にしてください。

【指導理念】

1 生徒の精神的な成長や人間形成の育成を図るための心の発達を促す

- ・「感謝の心」「謙虚な心」「素直な心」「感動する心」「仲間を大切にできる心」等を育成する。
- ・「負けた」「失敗した」結果から、「悔しさ」「今度こそは」と感じる気持ちになるよう諭す。
- ・具体的な目標設定なくして成長はない。できることから取り組み積み上げる大切さを指導する。
- ・小さなことをおろそかにしないで、毎日の何でもない練習の繰り返しに「ベストを尽くす」ことの大切さを指導する。

2 規範意識やマナーなどの社会的態度や社会生活の道徳性を身に付けさせる

- ・マナーや礼儀、挨拶、習慣など生活面での様々な総括の土台を基礎として、初めて競技力の向上につながることを指導する。
- ・個性を活かし、自分たちで解決しながら、他の学校生活で生かすことができるように指導する。

生徒の思い出

松山市立拓南中学校サッカー部 部活動通信の一部抜粋

(平成14年度)



1 サッカー部の活動を振り返って 3年生の反省から

ジュニアユース選手権を終えて、1～3年生にそれぞれの感想や反省を書いてもらいました。3年生の書いたものを一部紹介します。

〔白石 拓巳〕 いつも優勝まであと少しのところまでくるのに、何回も逃してしまいました。優勝することの大変さを知りました。決勝戦で、久米に市総体のリベンジをとという意気込みがみんなにあったと思います。しかし、2-3で負けて悔しかったです。チャンスを生かせなかったことが残念です。練習でもっと集中しておれば、総体やジュニアユース選手権で優勝できていたかも知れません。冬場に部活動停止という時もあり、大変チームに迷惑をかけました。とても悪いことをしたなと思います。高校でもサッカーをしたいです。先生に教えてもらったことを高校でも使っていきたいから、もっともっと体を大きくしたいです。背を伸ばすために牛乳を飲み、体を大きくするためにたくさん食べて、体力をつけるためにたまには走ったりもしたいです。でも、高校でサッカーをしたいのだから、行きたい高校に行けるよう勉強していきます。お忙しい中協力して下さった保護者のみなさんありがとうございました。ジュニアユースの結果は保護者のみなさんのおかげでもあります。ありがとうございました。

実践事例

＜平成22年度 八幡浜高等学校陸上競技部顧問 倉田 茂先生＞

指導者としての指導理念、指導の心得の紹介

- 1 教師との出会い、陸上競技との出会いを決して後悔させないこと
＝部員は指導者を選べない。指導者が常に努力する気持ちを忘れないこと＝
- 2 走る楽しさを決して失わせないこと
＝勝利も記録も順位も目標であり目的ではない
最も大切なことは、「走ることの楽しさ」を失わせないことである＝
- 3 生徒が求める指導者は過去に何をしたかではなく、自分に何をしてくれたかである
- 4 部を強くできないことを部員や環境（学校）のせいにする指導者はどこに行っても強い部は作れない
- 5 苦しい練習に楽しく取り組ませる工夫と配慮
＝強くなる過程は単調で苦しいものである
それをいかに楽しく、また興味を持って取り組ませるかが指導力である＝
- 6 身体を動かせる指導ではなく、心を動かす指導を心がけよ
＝心が動かなければ身体は動かず、練習効果はみられない。心が動かない練習は成果が残らず疲労が残る＝
- 7 最大の練習意欲は、進歩、向上していることに気付かせることである
- 8 強くなるために大切なことは、トレーニングではなく「生活」である。身体能力ではなく「性格」である。素質ではなく「努力」である
- 9 生徒の能力、適性の発見
＝多くの能力を持った生徒が3年間でいかに能力を発揮し、大きく伸びるかは指導者の種目選択能力にある＝
- 10 練習の雰囲気大切に
＝日本一の選手は、日本一の素質を持っている選手ではない。日本一の雰囲気から生まれるものである＝
- 11 自己に対する期待感を大切にさせる
＝自己に対する期待感に加えて、指導者も常に部員への期待感を大切にすること＝
- 12 陸上競技の人生への位置付けを常に確認すること
＝部活動は娯楽でも放課後の暇つぶしでもない。人生をいかに生きるかを学ぶ大切な場所である＝
- 13 どんな練習をしたかではなく、どういう気持ちでしたか
＝「トレーニングの原則」の中の「意識性」を大切にさせる。＝
- 14 常に生徒のところへ歩み寄る姿勢を
＝どんなすばらしい指導者も昔は未熟な競技者だったことを忘れてはならない
過去の栄光で指導はできない＝
- 15 目標の設定
＝生徒だけの目標ではなく、指導者が生徒の可能性を見付け出して与える目標が大切である＝
- 16 義務・責任・他人のために走らせるな
＝競技結果により義務や責任を果たせたり、他人を感動させることがあるかもしれないが、それが目的ではなく真の目的は「自己の向上」にある＝
- 17 トレーニングの長期計画、年間計画、月間計画、日々の練習計画を提示し、練習の目標、流れ、心構えを大切にさせる

- 18 日々の練習を反省させ、明日の活力にさせよ
＝学習の基本は、「見ること」、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」、「話すこと」、「感動すること」である。まず、話が聞ける部員にせよ
そして、強くなるための書物が読め、日々の生活の反省を書ける部員にせよ
練習日誌により日々の生活の反省、明日への活力にさせよ＝
- 19 結果に対して指導せず、結果が出るまでの過程で精一杯の指導をせよ
＝指導者は結果に対する手遅れの指導が多い＝
- 20 生徒から学ぶ気持ちを大切にすること
＝指導者が最も大きく学べるのは、自分が指導している部員からである＝
- 21 大きな栄光ではなく、小さな喜びを大切にさせよ
＝日々の小さな喜びがいつか大きな栄光となる
強くなる選手は、小さな喜びを大きくすることが上手である＝
- 22 信頼できるマネージャーの育成
＝指導者と競技者の間に素晴らしいマネージャーのいる部は強い＝
- 23 部活動が強くなれば学校は良くなり、学校が良くなれば部は強くなる
- 24 「素質」＝見付けるもの 「調子」＝作るもの 「チャンス」＝つかむもの
- 25 「夢」＝追いかけるもの 「目的」＝達成するもの
「目標」＝日々の生活を充実させるもの
- 26 努力には夢がある
夢に向かって努力することも大切だが、「努力」そのものに「夢」があることを忘れてはいけない

生徒の思い出

勝利の感動

平成20年度 県中学総体優勝 当時主将今治市立南中学校 渡辺 真子



決勝戦2セット目。いよいよマッチポイント。私は、祈る気持ちでサーバーに駆け寄りました。背中をポンとたたき、「あと一本よ。落ち着いて。」と声をかけました。全員が強い気持ちを込めたプレーでつないだ一球は、まもなく相手コートに落ちました。

試合終了を告げる笛と審判の声が大きく響き、私たちは全員でガッツポーズと共に号泣しました。初めてのうれし涙。これこそ汗と涙の結晶でした。

今治予選直前の練習中、私は思いもよらぬケガをしてしまいました。練習に参加できない日が続き、気分は落ち込み弱気になりました。しかし、チーム全員が気持ちを一つにして目標達成に向けて努力しているのを見て、今自分にできることは何か、何が何でもみんなと一緒にコートに立ってやるんだという、強い気持ちになりました。試合の日には何とか、コートに立たせてもらいプレーしました。今私ができるすべてのプレーを大切に、一球に気持ちを込めて戦い抜きました。みんながバレーをするという喜びを味わい、チームメイトの素晴らしいさを体感しました。

私たちは、みんなから応援をいただき愛されるチームであることが何より大切だと思っています。試合中には、応援席からの先生方、1、2年生部員、保護者の方々の声援がコートに伝わります。そのエネルギーが大きな一つの輪となり、みんなのチームワークで優勝という結果を出すことができました。今回の勝利は、常に指導してくださった先生、諸先輩、見守ってくださった保護者の方々のおかげです。

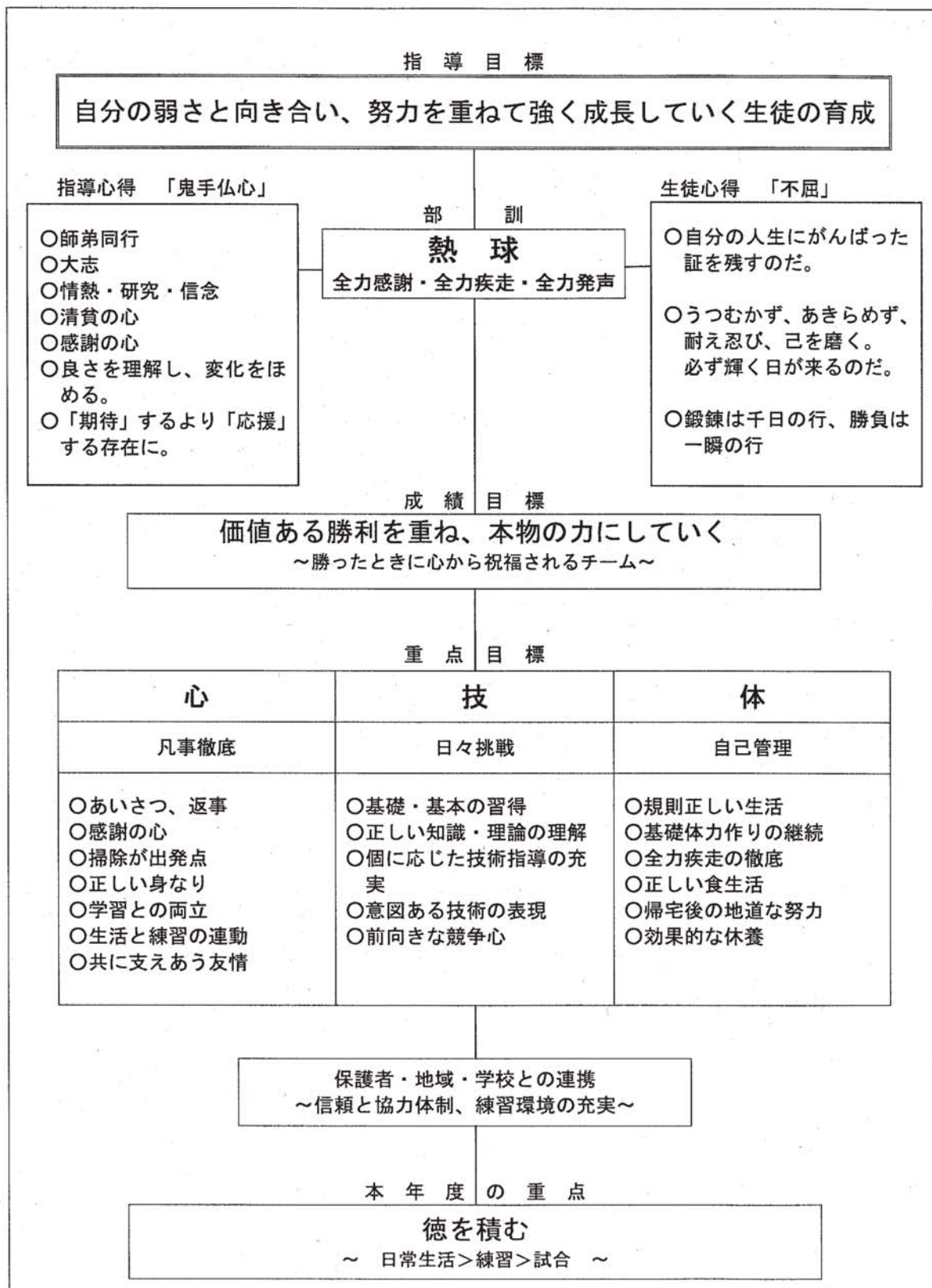
決勝戦直前、「挑戦者として全員で戦いに行こう」と決め、無欲でコートに立ちました。勝ちたい、絶対勝つ。気持ち、気持ち。と思いながらも、今までの県大会では何度も悔し涙を流してきました。また、その負けを忘れることなく、練習に練習を重ね、汗を流しました。努力すれば必ず、それだけの結果が出ることを信じて……。バレーの神様はいると信じ、迷った時にはあえてボールに触らず、部員一人一人の生活態度の見直しに力を入れ、十分話し合いをもちました。

今までの練習で流した涙、自分たちの行動を見つめるためにボールを遠ざけたこと、毎朝の走り込み……。すべてこの一瞬の喜びのためであったのだと私は感じます。毎朝の走り込みからスタートし、おもしろみのない基礎練習の積み重ね、練習中の課題は練習で厳しく言い合い、汗や涙はすべて体育館に流しました。この仲間、先生。この出会いと絆は、一生の宝物です。チームワークの大切さはメンバー一人一人の胸に強く刻まれています。全国大会出場という目標は達成できなかったけれど、県大会で優勝した喜びをかみしめ、バレーボールを通して学んできたことをこれからの人生に生かしてより大きく飛躍させていきたいと思っています。

実践事例

<平成22年度 伊予市立港南中学校野球部顧問 松浦 裕司先生>

2010伊予市立港南中学校野球部 指導計画



【質問2】

具体的な指導方針としてどのようなことが挙げられますか？

【ヒント】

部活動の指導において、顧問自身の指導に対する方針を具体的にもつことが大切です。そして、そのことを生徒に明確に示す必要があります。

顧問としての指導方針をもつに当たり、下記のことや先輩教員等の実践事例を参考にしてください。

1 顧問自身の指導方針を明確にし整理して、生徒に明確に示す

- ・「何をやったかではなく、何のために（どんな気持ちで）やったか」「どうなったかではなく、どうなりたいか」を考えさせて理解させることから始める。
- ・技術的なチェックポイントを指し示し、気持ちよく失敗させ、的確に褒めるが、「分かったふり」をした生徒を見逃さない指導をする。
- ・やるべきことをやったら、あとは最小限のことをしながら見守る。生徒の伸びしろや潜在能力を「信じる」だけである。

2 技術的な特徴を明確にしたチームや選手像のイメージを示す

- ・「・・・」の技術だけは、他のどのチームにも負けないという自信をもたせる。そのために「・・・」の技術練習には最も力を入れて取り組ませる。

3 試合では、どのようなスタイルで戦うのかなど戦術面において、目指すチームスタイルや選手像を明確に示す

- ・「攻撃的な・・・」「・・・な守備ができる」「高さを利用した・・・」「俊足を生かしたスピードのある・・・」など特徴あるチーム作りを目指す。



名言2



一方はこれで十分だと考えるが、もう一方はまだ足りないかもしれないと考える。
そうしたいわば紙一枚の差が、大きな成果の違いを生む。

パナソニック創業者 松下幸之助

WE LOVE SOCCER!!!

What is SOCCER?

＜拓南中サッカー部情報＞2003⑩

平成15年6月10日(火)

拓南中学校サッカー部

【大人も子供もサッカーを学ぼう! ④】

総体優勝をめざして 自分を知る・相手を知る

今回は、総体での戦い方の確認、また、対戦チームの試合を観る(みる:「見る」ではない)ときのポイントをまとめました。ミーティングでも活用しますし、11日には、2回戦で対戦する相手(1回戦:椿一道後)のゲーム分析も行います。

1 総体を勝ち抜くために 拓南の特色を最大限に生かせ!!

(1) コンパクトサッカー

- ① 厳しいプレス=これが拓南
- ② チャレンジとカバー、そしてサンドイッチの連続
そのためには、第1DFの判断とアプローチがもっとも重要。
- ③ 相手の攻撃能力(「パワー」と呼んでいる)のあるなしでポジションが決まる。
パワーがあるときは、マークの原則(特にウラをとられない)を必ず守る。

(2) ゴールをめざせ

- ① 必ず決定機がくる。……味方を信じる。
- ② パスの優先順位……1:最優先はシュート、2:DFのウラ、3:バイタルエリア
だからこそ、MFやSB(サイドバック)のスペースへの飛び出し、ゴール前のつめが重要。
- ③ 迷ったら相手ゴール方向へ……迷いが敵!

(3) Be Alert! (ビー、アラート=集中せよ)

- ① コミュニケーション(「関わる」「伝える」)
- ② 視野の確保→次の予測……ボールウォッチャーにならない。
- ③ リスタート……集中力が切れやすい場面。チャンスにし、絶対ピンチにしない。
CK、FK、スローイン、PK、キックオフで流れが変わる

指示の声の力で仲間の
集中力を切らない。

(4) 勝利への強い意志がすべて

- ① 自分をこわせ。……これまでの自分をこえるチャンス。
- ② 失敗を恐れるな。→ミスしたら切り替え。失敗にうつむいたりへこんだりする時間なし。
- ③ 前向きの人(いきおいのある人)を使え。……夏は試合ごとにヒーローが変わる。

「自分はこのくらい」と思っ
たところで勝負がつく。

(5) チームのねうち

- ① 中心選手が役割・責任を自覚せよ。→チームがうまくいかない時こそねうちがわかる。
ゲームの流れ、味方の状態を読み、声をかけ、励まし、ゲームを動かす。
- ② フェアプレー……相手、審判、仲間、応援・協力者にさわやかな感動を。
- ③ 勝ち方・負け方がチームのねうちを決める。チーム全員が挑戦せよ。

今の拓南では誰?

2 ゲーム分析の方法 相手を知る (自チームを分析するときも同じですが)

(1) サッカーの局面

サッカーの局面は3つしかありません。それは、

- ① 自分のチームがボールを保持しているとき
- ② 相手チームがボールを保持しているとき
- ③ ボール保持が切り替わるとき(攻守の切り替えの場面)

です。選手やチームの質が高いかどうかは、この場面を観察すればわかるのです。

(2) 試合で何を見るか 「観ようとしないと何も観ることができない」

中田選手のように、すぐれた選手は、試合の中でも、競技場の真上から試合を見ているかのようなプレーをしていると言われています。拓南には・・・？見るポイントは、以下のとおりです。

システム・スタイル・攻守の中心・攻撃のパターン・守備のパターン・得失点パターン
・選手個人の能力・リスタート・基本からのチェック・その他

① システムは

ア 4-4-2、3-5-2等 イ トップの配置 (1トップ、2トップ、役割等)
ウ 最終ライン (ゾーン、マンツーマン、リベロ) エ ボランチ (1人、2人)

② スタイルは

ア ポゼッションプレー＝チームでボールをキープし、簡単に奪われない。
イ ダイレクトプレー＝あまり手数をかけず、積極的にしかけてゴールを奪おうとする。
ウ カウンター＝攻められても分厚く守り、奪った瞬間に少ない人数で速攻をかける。

③ 攻守の中心選手は

ア ゲームメーカー、ゴールゲッター、センターバック
イ ホットライン (攻撃時のパス交換の特徴: ゲームメーカーが最初に狙う選手)

④ 攻撃パターン

ア ビルドアップ (組み立て方・・・どこで数優位を作るか) イ カウンターのパターン
ウ スペースを作り出すパターン エ FWの動き (スペースの作り方・入り方)
オ 突破のコンビネーション (誰が起点となり、どのエリアを利用するか)
カ サイドアタックとクロスの傾向 (アーリークロス、ハイクロス等)

⑤ 守備のパターン

ア ラインのとり方 (深さ、オフサイドトラップ等) イ マークの受け渡し
ウ フォアチェック (=前線から積極的に守る) カリトリート (=後退して守る) か
エ 高さへの対応 (誰がせるか、役割分担は) オ プレスのかけ方 (エリア、追い込み方)
カ GKとの連携 キ 弱点 (スペース、マークの受け渡し、プレスのかげ方、ボールウォッチング)

⑥ 得点、失点パターン 誰からのパスか、ホットライン等

⑦ 選手個人の能力

体格、利き足 (どの程度利き足に頼るか)、スピード (ボールを持った時、持たない時)、
テクニック、インテリジェンス (視野、創造性)、ファーストタッチ (その際にスペースが見える選手)、身体能力 (強さ、高さ)、メンタリティ (精神面・・・中学生は、これが大きく影響)

⑧ リスタート (CK、FK、スローイン、PK、キックオフ)

ア 攻撃

キッカー (蹴り足)
球質 (スピード、スワープ等)
トリックプレー (相手をだます、おとり)
中への入り方
ロングスロー

イ 守備

ポジション
GKの守備範囲
壁の作り方
カウンターの狙い方

⑨ 基本からのチェック

ア 個人の技術・技術

イ 個人の戦術

守備の原則、攻撃の優先順位 (ボールを持ったとき、持たないとき)、
ファーストタッチ、視野、身体の動き、チャレンジとカバーの連続性

⑩ その他

ア チーム全体の体力面、精神面の持続性
イ 選手のコンディション (けがの有無、イエローカードの枚数) ウ 選手交代の方法
エ チーム全体の雰囲気 (レフェリーへの対応、監督と選手の関係) オ ベンチの指示

保護者のみなさま、卒業生の保護者や素鷲少年団の方々をはじめ、多くの人々の後押しを受けて、チームの勢いは増しています。本番が楽しみです。

【質問3】

運動部の顧問としてどのようなことに留意して指導すればよいですか？

【ヒント】

運動部活動を適正かつ安全に指導するために、次の項目をチェックしてみましょう。

- ☐ 1 健全な心身の育成や望ましい人間関係を醸成するなど、部活動の意義や目的を理解する。
- ☐ 2 スポーツ障害を防ぐための発達の段階に応じた指導や事故防止など安全への配慮、緊急時の即座の対応の仕方などを理解する。
- ☐ 3 勝利至上主義に陥ることなく部活動の楽しさを味わわせるように心掛ける。
- ☐ 4 担当する種目のもつ特性（その種目の魅力や良さ）を十分に理解する。
- ☐ 5 レギュラーだけでなく、部員一人ひとりとのコミュニケーションを大事にするとともに、それぞれの個性に応じた指導を心掛ける。
- ☐ 6 常に向上心を持ち、経験だけに頼らず、専門書やインターネットなどを利用して、科学的理論に基づいた効果的・効率的な指導に心掛ける。
- ☐ 7 保護者や学級担任との連携を密にし、生徒がバランスのとれた生活ができるように学業・生活面の指導にも十分に配慮する。

先輩教員の実践事例等を参考にしてください。

実践事例

<平成22年度 新田高等学校柔道部顧問 浅見 三喜夫先生>

【指導者としての心得】

- 1 全ての部員に平等に接し、平等にチャンスを与える。
- 2 どんな時でもごまかさず、本音で接する。（迫る）
- 3 どんな時でも諦めず満足せず、諦めささず満足させない。
- 4 いつも一緒に行動し、常に全員に目を配る。
- 5 各人の個性を尊重し、型にはめず長所を伸ばす。
- 6 常に（生徒以上の）高い目標を持ち、目標達成可能な稽古を与える。
- 7 発想は、常に良い方向に転換する。（プラス思考）
- 8 高校時代は通過点に過ぎず、次のステップ段階と考える。
- 9 在校部員・卒業部員にかかわらず意欲ある者には、全力で協力する。

部活動について・・・

部活動が、教育課程に準ずる活動として取り上げられた。それについての善し悪しはともかく、生徒の生活を彩るものとして、あるいはそれ以上の教育的意義をもつ活動として、中学・高校に欠かせないものの一つとなっていることを、文部科学省もやっと認識したようである。

部活動の指導にあたっては、次のことをおさえておく必要がある。

第1に、集団としての最低限の規律を徹底して守らせる。

第2に、達成感・成就感を味わわせる。

第3に、生徒の自主的、自治的態度を育成する。

では、最低限の規律とは・・・、「時を守り、礼を正し、場を清める」ということに尽きる。

開始時間を守らせることは、個人の気ままな心を摘み取る有効な方法であり、その徹底が集団として一体感を育んでいく。また、挨拶に代表される「礼」は、社会的存在としての自分を自覚させることになる。もちろん、我儘(わがまま)をおさえることにもなる。清掃や整理整頓は言うまでもないことである。

部活動における達成感・成就感は、授業のそれを上回る強さで生徒の心にくい込むことがある。この感覚は、技術的な壁を越えることができたときや、仲間とともに活動に熱中できたとき、試合やコンクールなどでいい成績を収めたときなどに生まれる。そのためには、周到な計画と評価が必要である。

練習メニューの作成にあたっては、技術面だけでなく意欲や態度についても具体的な到達目標を明らかにすべきである。初めて担当する種目なら、とりあえず生徒に計画を立てさせ、納得いくまで質問もして、生徒の自覚を高めることが大切ではないだろうか。(知ったか振りは直ぐに見抜かれトラブルの原因となる)そして、初期の段階では教師(指導者)は、生徒の意欲や態度に注目し、それに的を絞った評価をすれば良いと考える。ダラダラした練習など、何の教育的効果もない。教職の専門性とは、種目の専門性を超えて、目標に向けて生徒をまとめ上げていくということにあるはずである。・・・とは言っても、日々の練習のあり方については、初めて担当する教師には分かりにくいものである。次の段階では、数多くの試合を見たり、専門とする指導者に聴いたりして、ポイントとなる基本プレーを見抜き、練習に組み込むことを考えることが大切になってくる。絶えず、「この練習は、試合のどの場面で生きてくるか」継続は力なりを生徒とともに確認すべきである。絶対に練習のための練習であってはならない。

種目にもよるが、フォームなど最も基本となる技術の指導は難しいものである。一部を矯正すると、全体が崩れてしまうことがよくある。上手な指導者は、全体のバランスをよく見て、根本的な問題点に絞って最小限の助言をする。くれぐれも「教え魔」にならないように気をつけたいものである。

部活動は、生徒の自主性や自治的態度を育成する場でもある。しかし、自主性を伸ばすという美名のもとに放任すれば、生徒はどんどん気ままになっていく。部活動における自主性や自治的態度は、前述したような基礎、すなわち活動の望ましい状態を体験していること、方法を知っていること、目標をもっていることなどの前提があって、初めて育っていくものと考えられる。

教師が忙しくて練習に出られない日々が続いたとき、いくらか練習のレベルが低下するのは止むを得ないことである。しかし、ほとんど壊滅状態になるようであれば、それまでの毎日の活動は教師にとって何であったのか・・・「悲哀なことである」。自己反省(評価)が大いに要求される。また、部活動は、教師にとっては集団の行動にかかわる心理や、集団を掌握する方法を学ぶ絶好の機会であるとも言える。厳しいかもしれないが、部活動という同好の集団すらコントロールできないということであれば、授業のコーディネートなどできるはずもないだろうし、ましてや、保護者との信頼関係を築くことなどは程遠いことである。

蛇足ではあるが学校が荒れているとき、部活動が効果を発揮することもある。顧問と生徒との信頼関係が築かれ、達成感や所属感を味わわせることができるからだと考えられる。また、保護者も生徒の成長や教師の努力に感銘し自ずと協力体制が構築されることが多い。しかし、いつまでも部活動に頼るのでなく、部活動はどう考えても対症療法であり、教師は大変ではあるが、根治療法としての教科指導を一刻も早く軌道にのせることが大切である。

最近、練習試合などにおいて、できないことがさも悪いことのように非難し人間的要素まで否定したり、我子に対する保護者の愛情の意味合いも理解できていないような、他校の教師を見かけることがある。本来、教師とは、できないことをできるように導き、保護者の良き相談相手となるべき立場ではないだろうか。



名古屋城